

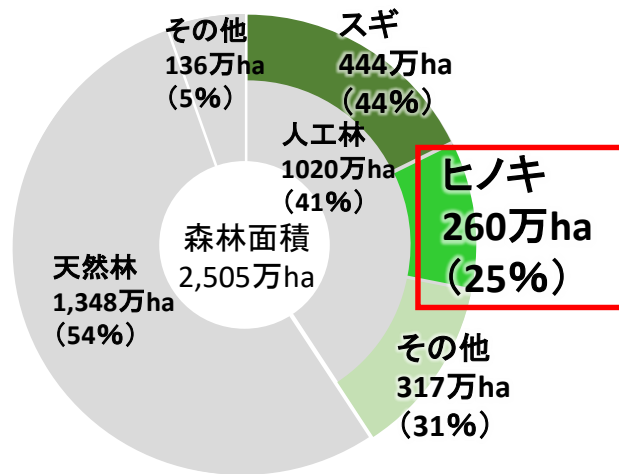
林野庁説明資料

令和元年11月7日

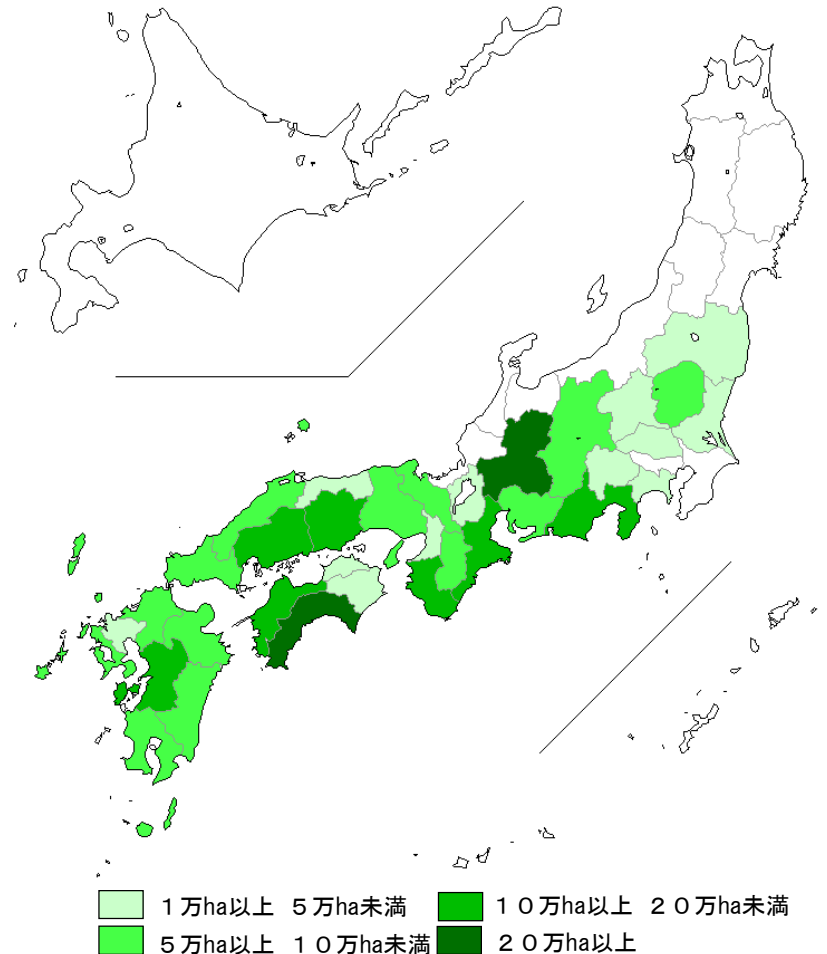
国内のヒノキ人工林資源の状況について

- ・国内のヒノキ人工林面積は260万ヘクタール（森林面積の約1割）。
- ・齢級構成をみると、戦後造林した人工林がメインで、大径材となる高齢級林分は希少な資源。
- ・ヒノキ人工林は、福島県以南に広く分布。

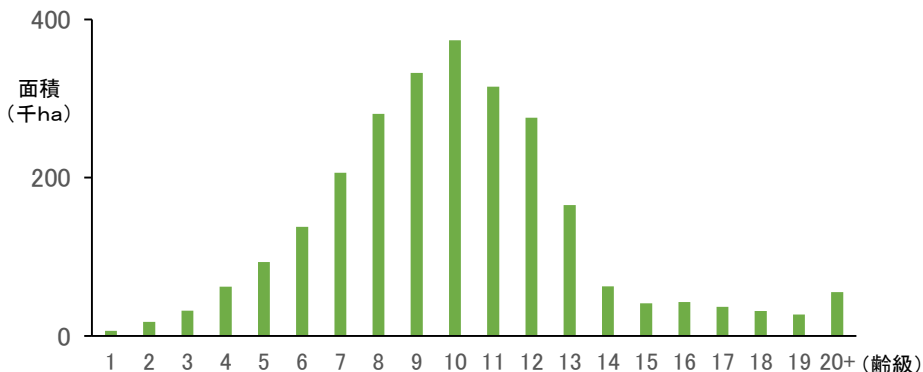
【ヒノキ人工林の森林面積】



【ヒノキ人工林の全国分布（面積）】



【ヒノキ人工林の齢級別面積】



※ 齢級（横軸）は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1齢級」と数えます。

資料：「森林資源の現況」（平成29年3月31日現在）

海外のヒノキ科の木材について

台湾ヒノキ【台湾檜】

(ヒノキ科・ヒノキ属)

- ・台湾北中部の高地に分布し、古くから日本に輸入され利用されてきた。
- ・耐久性と強さがあるため、入手が困難となってきた国産ヒノキ大径材の代替として利用されてきた。
- ・現在では、台湾で伐採禁止、輸出禁止となっている。



ベイヒ【米ヒノキ】

(ヒノキ科・ヒノキ属)

- ・アメリカ西部に分布。
- ・国産ヒノキと材質がよく似ているため、その代替材として用いられる。



サイプレス【豪州ヒノキ】

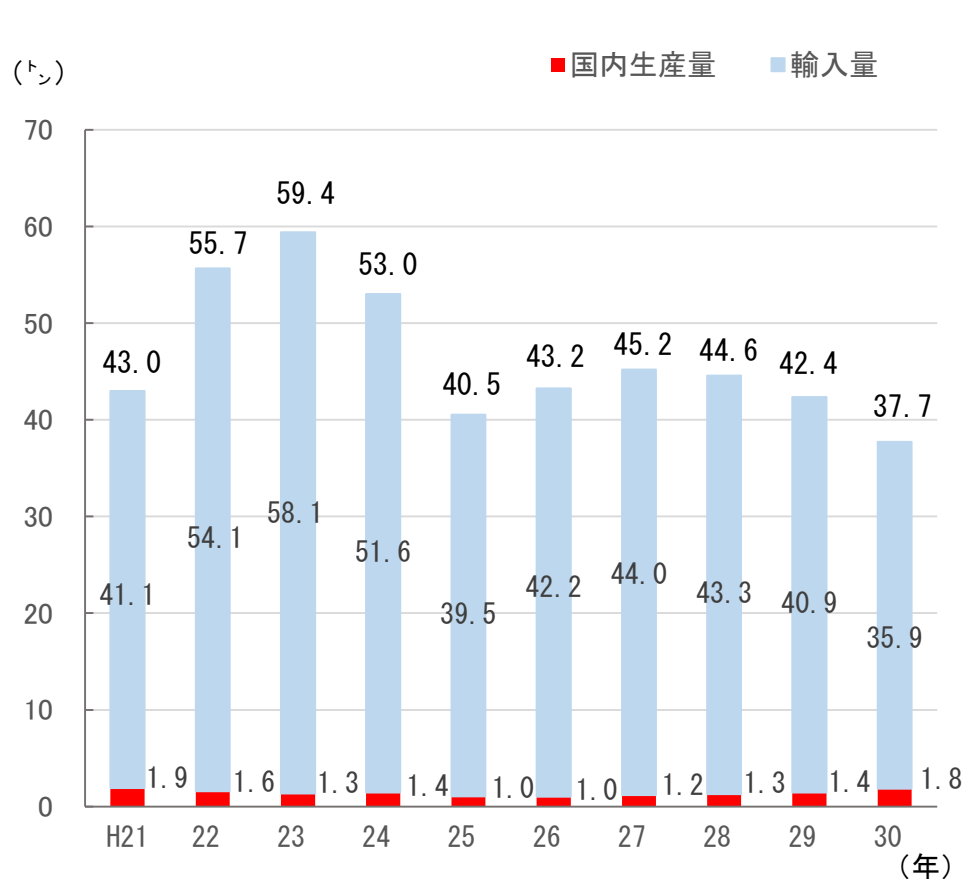
(ヒノキ科・ヒノキ属)

- ・オーストラリア北東部に分布。
- ・耐久性・腐朽性に優れているため、国内でも土台、床材、壁材、デッキなどエクステリア材として利用されている。

我が国における漆の調達について

- ・国内で消費される漆のほとんどが中国から輸入されている。
- ・岩手県を中心に生産される国産の漆は国宝・重要文化財の修復のために多くが使用されている。

【漆の消費量の推移（過去10年間）】



資料：林野庁「特用林産基礎資料」

【平成30年国産漆の生産量】

(単位：kg)

道府県 注1	H30 (2018)	構成比
岩手	1,256	68.1%
茨城	360	19.5%
栃木 注2	120	6.5%
福島	38	2.1%
長野	24	1.3%
新潟	12	0.7%
石川	11	0.6%
山形	10	0.5%
岡山	10	0.5%
北海道	3	0.2%
京都	1	0.1%
計	1,845	100%

- 注1： 各道府県の記載順は、平成30年の生産量の多い順。
 注2： 道府県別の生産量は、生産者の所在道府県ベースの量。
 （近年の栃木県分の生産量の大部分は、茨城県内のウルシ林から生産。）

資料：林野庁「特用林産基礎資料」